

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	pathological Stage II/III 胃癌におけるリンパ節転移程度の評価について
	研究目的	pathological Stage II/III 胃癌に対する治療は根治的切除と術後補助療法であるが、5年生存率は71.7%と未だ改善の余地がある。一方で、リンパ節転移程度の評価に関して、胃癌取扱い規約では転移リンパ節個数で分類しているが、郭清リンパ節個数は考慮されていない。最近、郭清リンパ節個数を考慮した Lymph node ratio (LNR)や the log odds of positive lymph nodes (LODDS)の予後因子としての有用性が報告されている。しかし、pStage II/III 胃癌における報告は少ない。そこで、pStage II/III 胃癌患者における LNR や LODDS の有用性について検討を行う。
	研究対象者	2000年1月から2018年12月までに当院で初発胃腺癌に対して根治的手術を施行し、pStage2,3であった患者さんを対象とした。
	研究期間	西暦 2019年9月11日 ~ 西暦 2020年3月31日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)	<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input type="checkbox"/> その他(記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録	
試料・情報の管理について の責任者	当センター 研究責任者	
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等	消化器外科部長・大島貴
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	なし